

令和6年度 学校評価結果及び成果と課題

1 課題分析の基準

(1) 以下の基準で、課題を分析する。

- ◇平均の評価点が2.9以下の項目
- ◇平均の評価点は3.0以上だが、一部に2や1の低評価を含む項目
- ◇昨年度の評価点よりも、0.5以上低くなった項目
- ◇職員の評価と、保護者や児童生徒の関連項目との、評価に0.5以上差がある項目

(2) 上の基準に加え、自由記述の内容を併せて確認し、少数意見であっても学校運営を見直す上で必要と判断される場合は、改善策の検討を行う。

(3) 評価の高かった項目に関しては、学校全体で改善策の検討は行わないが、これまでの取組を継続しながら、更に充実を目指す。

2 昨年度の課題への取組結果について

【教職員アンケートの結果からの課題】

- (1) 「(7) ①キャリア教育全体計画の見直し等」の項目において、評価点の平均が昨年度より、「0.4」上がり改善が見られた。また、同様の課題であった「(7) ②キャリアパスポートの効果的な活用」の項目においても、評価点の平均が昨年度より「0.2」上がり、若干の改善が見られた。しかし、キャリア教育全体計画を見直し、キャリア教育の実践・評価を教育課程の改善に反映させるまでには至っていないので、今後も、教育課程検討委員会等で協議しながら取組を進めていきたい。
- (2) 昨年度の全校的な課題であった働き方改革に関する2項目「(9) ①業務改善アクションプランによる業務の効率化」、「(9) ②プラス1推進運動や安全衛生委員会の取組を中心とした働き方改革の推進」においても、評価点の平均が、昨年度より「0.3」ずつ上がり、若干の改善が見られた。しかし、業務改善に関するアンケートでは、業務改善について具体的な意見が複数挙げられている。これらを全員で共通理解し、改善できるものから改善し、働き方改革をさらに進めていきたい。

【保護者アンケートの結果からの課題】

様々なPTA行事を計画、実施することにより、「16 保護者はPTA活動に協力的」の項目の評価点が、昨年度より幼稚部で「0.3」、中学部で「0.6」上がり、全体でも「3.1」から「3.3」に上がった。一方、高等部は、「0.3」評価点が下がった。高等部の保護者は遠方の方が多いため参加しづらい部分はあるが、今後も集まりやすい期日の設定や参加していただけるような企画をPTA役員と連携しながら検討したい。

【児童・生徒アンケートの結果からの課題】

「4 家庭や寄宿舎での学習の仕方へのアドバイス」の項目の評価点が、昨年度より「0.4」上がり改善が見られた。学習の仕方について丁寧に伝え、内容が伝わったかどうかの確認を行ったり、家庭と連携し、家庭学習の状況を把握しながら宿題の質や量の調整を行ったりした結果だと考える。

3 次年度学校全体で改善策を検討する項目について

(1) 課題分析の基準から学校評価検討委員会で課題の抽出を行った結果、以下を検討する。

No.	具体的評価内容	検討の理由	検討主体と手順
職員	(1) ①聴覚を最大限に活用するとともに、視覚的情報や個に応じたコミュニケーション手段を活用することで、言語力やコミュニケーション力を高め、確かな日本語の習得を図る。	平均評価点が「3.0」以上で、「2」や「1」の低評価もなかったが、全項目の中で評価点が最も低かった。	来年度の全日聾研長崎大会を控え、部内はもちろん校内で、コミュニケーション手段や方法、言語力育成の道筋等を検討・確認し、全校的に共通理解していく。また、保護者や外部の人へも学校としての考えを説明していく。
保護者	1 3 新聞を読む機会や読書活動の場を設定している。	一部低評価	各部ともに、読書活動の場面や新聞を読む機会を設定しているが、さらに機会を増やせないか各部で検討していく。また、学校での取組を保護者にきちんと周知することにも取り組む。
	2 3 福祉、医療、進路に関する情報提供がなされている。	一部低評価	多様化する生徒一人一人の状況に応じて、生徒・保護者のニーズをしっかりと把握し、ニーズに応じた対応を行っていく。また、伝えた情報がきちんと伝わっているのか保護者と丁寧に確認しながら適切な情報提供に努めていく。
生徒	学校全体で改善策を検討する項目はなかった。		

4 各部で改善策を検討する項目

- (1) 課題分析の基準からの検討課題を導き出す。
- (2) 検討課題がある場合は、それぞれ改善に向けて早急に取り組む。

5 その他

- (1) 即時性が必要な事柄については、早急に改善を行う。
- (2) 2月の職員会議までに、改善対策の方針を整える。